

## 令和 6 年度 学校評価報告書（総表）

|                      |            |     |       |
|----------------------|------------|-----|-------|
| 1 学校の概要              |            |     |       |
| 学校名                  | 筑波大学附属高等学校 | 校長名 | 藤生 英行 |
| 幼児・児童・生徒数（R7.3.1 現在） | 714        | 学級数 | 18    |

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 教育目標等            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ① 学校教育目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自主・自律・自由をモットーとする。</li> <li>(2) 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育、徳育、体育の調和をはかる。</li> <li>(3) 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期する。</li> <li>(4) 特別教育活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。</li> <li>(5) 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。</li> </ul>                                                                 |
| ② 学校経営方針           | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等にのっとり、また本校の学校教育目標を達成するべく学校運営をすすめる。</li> <li>(2) 筑波大学の附属学校として教育実習等に協力し、また、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想の実現をはかるよう教育・研究活動を推進する。</li> <li>(3) 全教員の積極的な参加と協力によって学校運営を行うことに努める。</li> </ul>                                                                                                                                |
| ③ 重点目標             | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 入学者選抜に関わる校内体制と手順の再確認</li> <li>(2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討</li> <li>(3) 教育活動の外部への発信</li> <li>(4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減</li> <li>(5) 保護者・地域住民との連携の強化</li> <li>(6) 情報セキュリティの強化</li> <li>(7) 中長期的な財政運営の検討</li> </ul>                                                                                                |
| ④ 前年度（令和5年度）の成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 校内体制と手順の再検討により、web による合格発表までのプロセスを改善した。</li> <li>(2) 将来構想委員会による検討が進行中。校内の合意形成が課題。</li> <li>(3) 研究大会などの機会を利用して、教育活動の外部への発信ができた。</li> <li>(4) 教職員の負担軽減に向けていくつかの業務を整理した。実効性や効果の確認が必要。</li> <li>(5) 学校行事の際に、地域住民の来校を促進した。警備上の安全確保が課題。</li> <li>(6) オンラインストレージシステムを積極的に使用して、インシデントを予防した。</li> <li>(7) 引き続き、財政上の課題に対する具体的な対策が必要。</li> </ul> |

### 3 重点目標達成についての総括的評価

- (1) 入学者選抜に関する業務の手順書を改善した。
- (2) 将来構想委員会を組織し、校務整理、行事見直し、カリキュラムマネジメントなどをテーマに、情報収集や研究会を実施し、将来構想への意識を高めた。
- (3) 教育関係者による見学を受け入れ、研究大会での授業実践報告を通して外部への発信を行った。また、海外からの教員訪問団も受け入れた。
- (4) 職員会議の議題の精選を行い、時間短縮に努めた。校務全体の業務量の軽減については今後の課題である。
- (5) 保護者や地域住民からの問い合わせに丁寧に対応し、学校行事時には警察と連携して安全確保に努めた。
- (6) 「筑波大学オンラインストレージシステム」と、校内の校務支援システムを積極的に活用し、事故の防止に努めた。また、個人情報の取扱いについて職員会議等で注意喚起を行った。
- (7) 財政運営については危機的状況を認識しているが、抜本的な改善策の検討には至っていない。

### 4 令和7年度の学校課題

- (1) D X（デジタルトランスフォーメーション）化による教育・研究活動の充実と、校務の効率化
- (2) 将来構想委員会を中心とした将来構想の検討
- (3) 教育活動の外部への発信
- (4) 保護者・地域住民との連携強化
- (5) 中長期的な財政運営の検討

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 校務支援システムやデジタル採点システムの機能改善を検討し、校務の効率化を図る。
- (2) 将来構想委員会において、小中高一貫教育の特性を生かした本校のあり方について検討を進める。
- (3) 各教科および総合的な探究の時間における実践研究を深めるとともに、その成果の外部発信についても継続的に検討する。
- (4) オンライン掲示板システムを活用し、保護者への情報提供や連携強化に努める。あわせて、学校行事を通じて地域住民との円滑な関係づくりを推進する。
- (5) 大学からの運営費交付金、学年費による教育環境改善経費、後援会からの寄附等、各種財源を総合的に見渡し、中長期的な財政運営のあり方を検討する。また、筑波大学基金を通じた寄附の呼びかけも含め、多様な財源の活用を視野に入れる。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

「筑波大学附属高等学校研究紀要 第66巻」

# 学 校 評 価 （自己評価） 報 告 書 （項目別表）

令和 6 年度

学校名

筑波大学附属高等学校

| 項番     | 評価項目                                         | 具体的評価結果                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1-1-3  | 体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況 | 各教科の授業において、実験や実習を通じた体験的な学びや、話し合いを通して、自分の考えを深めたり発表したりする学びを引き出す実践を展開できた。また、総合的な探究の時間においては、1年生は研究倫理や多様な調査手法を習得し、2年生は論文執筆を行い、発表会で積極的に発信するなど、問題解決能力と発信力の向上につながった。 |
| 5-1-2  | 家庭や地域の関係機関、団体との連携の状況                         | 「入構ガイドライン」を遵守して、入構者の管理を徹底した。また、学校行事のときは、その行事の特性に応じた管理手法を関係機関・団体と密接に連携して検討した。その結果、安心安全な教育活動を継続できた。                                                            |
| 9-1-2  | 学校の状況を踏まえ重点化された短（中）期の目標等の設定の状況               | 前年度に開発した「総合的な探究の時間」の指導プログラムについて、他校への普及を目指し、見学者の受け入れや、他校への訪問などを行い、他校との連携を強化した。                                                                                |
| 10-1-1 | 学校に関する様々な情報の提供状況                             | 学校見学会や学校説明会の機会を複数回設け、情報発信に努めた。在校生の視点を取り入れた学校生活の紹介に力を入れた。                                                                                                     |
| 10-1-3 | 児童生徒の個人情報の保護の状況                              | 「筑波大学オンラインストレージシステム」と、校内の校務支援システムを積極的に活用し、生徒の個人情報保護に取り組んだ。また、職員会議等で注意喚起することで、リスクの事前回避に努めた。                                                                   |
| 11-1-2 | 地域住民から寄せられた具体的な意見や要望の把握・対応の状況                | 電話などによって地域住民から受ける意見や要望については、事務室、総務部、管理職が連携して、可能なものについては迅速な対応を行った。地域住民との会合など、積極的に意見や要望を聞く機会がもてていないことは課題である。                                                   |
| 14-1-1 | 入学者選抜                                        | Web 出願システムの取り扱い要領を見直して、事前に十分確認して、ミスを未然に防ぐ体制の構築に努めた。その結果、公正な選抜を円滑に実施できた。                                                                                      |
| 14-1-4 | 教員養成・教師教育                                    | 教育実習では、きめ細かな指導をすることができた。研究大会では、情報交換会を企画するなど、教員同士がそれぞれの教育現場の視点から、専門性を高められる機会を提供した。                                                                            |
| 14-1-5 | 国際交流・国際貢献                                    | カナダのプリンスエドワード島大学での研修、韓国ハナ高校でのシンポジウム、シンガポールホアチョン校での短期留学など、充実した活動を行えた。引率費用の予算が十分ではないことが課題である。                                                                  |